

來迎寺之田地參百八十町、此田德錢之事、任先規之旨奉寄進者也。仍寄進狀如件。

文龜元年十月廿七日

(追筆)
長四郎三郎寄進狀

信 清 在判

來迎寺別當

文龜二年

壬戌

紀元二二六一

正月十四日。後柏原天皇、甘露寺元長に、石川郡大桑莊等を安堵せしめ給ふ。

一一〇五

【守光公記】

加賀國大桑庄・越前國東長田庄・攝津國藏殿庄・近江國福光保并沼波庄預所職、丹後國岡田庄・尾張國靈福寺郷・洛中散在之敷地等、任當知行之旨不可有相違。件證文、去明應元年十一月廿九日爲盜人散失云々。隨求出可備證文者也。可被全知行旨、天氣所候也。仍上啓如件。

文龜二年正月十四日

(原稿)
左少辨守光

謹上 (元長)
甘露寺中納言殿

七月十日。幕府、山城東福寺に、同寺領江沼郡熊坂莊の御即位段錢を免除す。

【東福寺文書】 山城

一一〇六

東福寺領加州熊坂庄御即位反錢事、先々爲免除地之上者、可止催促之段、被成奉書於使節畢。可被存知之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜二年七月十日

(松田顯亮)
豐前守 在判
(松田長秀)
前丹後守 在判
(飯尾清忠)
前加賀守 在判
中務大輔 在判

當寺雜掌

(後柏原天皇は永正十八年即位あらせらる。)

八月三日。足利義澄、山城神護寺に、石川郡豊田村・中興保を安堵せしむ。

【伺事記録裏書文書】

一一〇七

清水坂神護寺領、加賀國豊田村・中興保今度還補地讚岐國坂田

郷、山城山科陵郷内田地壹町八段、并綾小路万里小路東南

頼屋地口七丈、寺家敷地、同門前屋地等事、任相續之旨、彌領知不可有相違之狀如件。

文龜二年八月三日

(足利義澄)
御判

住持貞助房

文龜三年

癸亥

紀元二二六三

九月廿三日。幕府、山城祇園社領河北郡輕賀野保に守護被官人の押妨を停む。

一一〇八

【祇園社記】

當社領加賀國輕賀野保事、就守護被官人押領、度々雖有御成敗、于今未休之條、且巨測神慮者歟、言語道斷次第也。所詮重而被成奉書之上者、退其妨、任當知行之旨、全領知、可被專神用之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜三年九月廿三日

(飯尾清房)
加賀前司 在判
(飯尾元行)
大和守 在判

祇園社執行御房

文龜三年、永正元年

文龜四年

甲子

二月三十日 紀元二二六四

永正元年

改元

二月十八日。幕府、山城石清水八幡宮善法寺に、同宮領能美郡三ヶ莊及び山上郷を安堵せしむ。

【菊大路文書】 山城

一一〇九

石清水八幡宮領加賀國能美郡三ヶ莊并山上郷等事、從往古爲守護不入之地之處、今度相懸課役及譴責云々。以外次第也。所詮早任奉書之旨、向後彌令停止諸役、全神用、可被專御祈禱之由所被仰下也。仍執達如件。

文龜四年二月十八日

(飯尾清房)
加賀前司 在判
(飯尾元行)
大和守 在判

當宮善法寺雜掌

(能美郡三ヶ庄は乃美・長野・一針なり。)

三月五日。加賀守護富樫植泰、法慶道場に、石川郡富樫莊四十萬村の内を安堵せしむ。